

○77

捧持御柱帰還 (H29/2/5作)

(仄起式 押韻は下平声二「蕭」である。)

一月十七日から参加しました硫黄島における遺骨集の任務を終え、十七柱の御霊を捧持して本邦に帰還し、千鳥ヶ淵墓苑において引渡を行いました。その前夜の思いを詠みました。

孤島巡壕耐灼燒  
誰知敢闕概然天  
遠離妻子団欒夢  
静捧御霊向本朝

○76

賜瑞宝中綬章 (H28/11/21作)

(仄起式 押韻は平声十四「元」である。)

平成二十八年秋の叙勲において、瑞宝中綬章を今上陛下より賜りました。長年の自衛官勤務が評価されたものと、感謝しております。更に日本のために頑張れとの励ましでもあるのでしょうか。

抱志務軍一路奔  
恍然賜章二傾樽  
四困蠹動雲如湧  
老體自鞭猶報恩

○68

旧紅顔集母校 (H24/3/20作)

(平起式 押韻は、下平声四「豪」である。)

去る十八日我ら防大三期生は、ホームカミングデイで小原台上の母校に集い、後輩の卒業を祝し、同期の団結を更に確固たるものにした。相応に年取ってはいしたが、未だ意気軒昂にしてその宿志は衰えず。

薰風台上祝英髦  
抱擁逢君天所褒  
陸続超時来母校  
健身強絆志猶高

○64

励野良 (H23/7/6作)

(仄起式、押韻は、平声四「支」である。)

第二の定年になり、近くに借りたレジャー農園の草茫々の畑を耕し野菜作りを始めました。朝夕の散水も苦になりません、日中の作業も楽しからずやです。

決意草叢農地披  
旦夕撒水不知疲  
炎天焦土忽埃卷  
育菜慈畝如愛児

○63

迎定年 (H23・6・12作)

(平起式、押韻は、下平声八「庚」である。)

小生も今月末を持って七年務めた第一生命を退社します。早いものです。年金生活をしながら「漢詩と投稿」そして農作業に精出したいと思つていきます。

光陰如矢七年盈  
只管果勤万感生  
皴深髮白身未老  
賦詩投稿励晴耕

○38

還暦同窓会 (H18/11/7作)

(平起式、押韻は、十一「灰」である。)

さる十一月四日鹿児島に帰省し、中学校の同級生との還暦同窓会を実施しました。会う前は誰か解るか不安でしたが、杞憂でした。時空を越えて昔に戻れるものようです。楽しき宴も忽ちに過ぎ、十年後古希に再会することを約して鹿児島を離れました。

秋香朋輩悦参来  
忽憶旧交带涙回  
不尽話題時瞬過  
古希固約再傾杯

## 迎還曆(H18/4/21作)

(平起式、押韻は、下平声一「先」である。)

小生も終に還曆を迎えました。家族集まってお祝いをしてくれました。有難いことです。還曆と雖も、気分は青年将校の気分です。引き続き己に出来ることを追求する所存です。その想いを託しました。

春宵族集酒樽前  
 還曆雖来氣浩然  
 世相混乱存宿志  
 読書揮筆意愈堅

## 回顧旅立(H16/2/16作)

(平起式、押韻は平声七「虞」である。)

自衛官としての来し方を振り返り、退官後に思いを馳せました。悔いなき自衛官生活だったと自負しております。勿論、もう少しという面も多々あります：

多年立志只馳驅  
 練武安災一丈夫  
 雖有大疵些自負  
 辭軍四月就新途